いわゆるさ
の成立に伴
出促進認定
まちが国や
業や木材産
し木材の安
のだ。2ー
業とする木
安定供給を
が微妙な義
業とされる
分かれば山
利も低減さ
定」とある
十分に検証
るが、まず
産材分野に
価値を定着
の義務とと
材等給の安
ではないだ
（虎）

協会限定ソフト「ウォールスタットS」発表

伏図入力なしでシミュレーション

耐震性能見える化協

耐震性能見える化協会（東京都、中川貴文代表理事）は1月17日、オンラインで耐震シミュレーションソフト「ウォールスタットVer5」と「ウォールスタットS」の発表会を開いた。

ウォールスタットの新バージョンについては同日、京都大学が発表し、その後同協会で説明会が開かれた。

中川代表理事は「Ver5で計算速度が高速化し、標準的な木造住宅なら1棟2分程度で計算ができるようになり、設計業務を止めずに使えるようになった。Sは、伏図入力なしで検証できる協会会員限定ソフト」と説明した。

ウォールスタットは中川貴文京都大学生存圏研究所準教授が開発した耐震シミュレーションソフト。開発当初は1棟2時間以上計算に時間が掛かったが、プレカットCADとのデータ連携やパソコン性能向上などで次第に高速化が進み、直近のVer4では、16分くらいで計算が可能になっていた。

ウォールスタットはフリーソフトで、ダウンロード数は5万件以上。協会では建材データベースの登録を進め、研修を受けてウォールスタットを使えるマスター登録会員は444人。コロナ禍で対面でのセミナーなどが開けなくなったものの、オンラインセミナーで800人以上が受講した。

これまで課題だった計算の待ち時間を短縮しようとアルゴリズム進化を深化させ、計算時間を10分の1に短縮。設計業務を止めないで継続できることで設計者がより使いやすくなった。

これまでは構造が決まりつつある段階でウォールスタットでシミュレーションを行うケースが多かったが、伏図入力なしでシミュレーションが可能なウォールスタットSも発表した。Sでは、床はフラットな状態で評価に限定され、登り梁や勾配天井にはまだ対応できないことなどを解説した。

新たなVerについて説明する中川代表理事

創業100周年記念誌を発行

丸美産業

丸美産業（名古屋市、鍋木一孝社長）は、創業100周年記念誌（写真）を発刊した。A4判カラー・本文90ページで、1920（大正9）年の丸美材木店の創業から始まる同社の歴史を、豊富な写真とともに7章に分けて紹介している。

2008年に発行した会社設立60周年記念誌をベースに、昨今の動向の記事とこれまで未公開だった写真を大幅に追加して再構成し

ラインで講演会

社長が講演

宮崎県

宮崎県木材協会（イ・クッシ）とオンライン

宮崎と韓国（上）をつないで木造セミナーを開催

で日韓をつなぎ、日本での非住宅木造建築の構造や防・耐火について、福田信史木構造デザイン社長による講演を行った。韓国側の参加者には、日本の木造耐火・準耐火の基準の違いなどに高い関心があることが分かった。

オンライン講演会では、福田社長が「本来なら韓国に行ってセミナーを行いたかったが、コロナ禍でこういう形になった。宮崎県は県土の76%を森林が占め、自然豊かな木材供給基地。2010年の木促法、21年の改正木促法など公共建築から建築一般に木造が広がっている。非住宅分野での木造軸組工法の普及へ支援をしていきたい」とあいさつ。

イ韓国木造建築協会会長も日本の木造軸組工法への期待を示した。

講演会では福田木構造デザイン社長が、日本での非住宅分野への木造を推進するために、RC造やS造との比較ではなく、木造の良さやメリットを理解してもらい、アドバンテージを示していく手法を紹介した。

内容は次のとおり。

他構法で設計されたものを、木造に置き換える提案では無理が生じやすく、幼稚園や高齢者施設など木造が積極的に好ましい用途で木造に適したプランを提案。

シンボリックで複雑な建築を木造にすると難しくなってしまう。意匠や構造、設備の設計を一緒に進め、無理のないプランにしていくことが大切だ。

また、日本の木造防・耐火の規定を解説。使用頻度の高い45分準耐火構造について部位ごと仕様の説明、木造耐火構造について説明した。

韓国側では耐火と準耐火の違い、燃えしろ設計の考え方とその根拠などについて関心が高く、「木材に石膏ボードで被覆してしまう耐火構造にどんな意義があるのか」などの質問があった。福田社長は、木造化することでの建物の軽量化によるコストメリットや、床の強力性、省エネ性能など、木材を見しにしなくても木造化のメリットがあることを説明した。